

第 1 回 食品安全文化の可視化に関する研究会議事概要

日時：2025 年 8 月 20 日（水）14:00～16:30

場所：中央合同庁舎第 4 号館／オンライン（Teams）

次第

1. 開会
2. 情報共有
3. 意見交換
4. 閉会

情報共有

本研究会発足の背景と目指すべき成果物案・進め方

- ・海外サービスの高価格・日本語対応不足を背景に、中小企業支援を念頭に「無料の可視化ツール」開発に着手
- ・第一期の成果：評価項目の整理（37 項目化、平易表現化・多言語化〔日本語・中国語・ベトナム語・英語・タガログ語・ネパール語・ミャンマー語〕）
- ・評価ツール（Excel）の策定と有効性検証（企業での実施・フィードバック・学術解析、項目圧縮の検討）

評価ツール（Excel）の概要

- ・Forms 出力を「データ反映シート」に貼付→結果概要・詳細結果を自動集計
- ・役割階層（管理者／監督者／作業員）・部門別（製造／管理間接等）の比較に対応、反転設問も実装
- ・上位／下位スコアの色分けとレーダーチャートで弱点把握を支援

実証企業の解析・フィードバック事例

- ・6 社で調査を実施。全体は 70 点台だが側面・職位・部門で傾向差が確認される
- ・例：作業員で「面倒に感じ後回し」が低得点の一方、「ライン停止で責められない」等の心理的安全性は高い事例
- ・数値や色分けに固執せず、要因と現場実態を照合し改善策を検討する重要性を説明

項目圧縮と外的指標との関係（第一期の学術解析）

- ・有効回答 459 名で探索的因子分析を実施し、暫定的に 5 因子構成が妥当との示唆
- ・37 項目の 25 項目化を提案。心理的安全性・知覚された組織的支援・ウェルビーイングとの相関は理論整合的
- ・結果表示（階層×側面マトリクス）と改善アクションプラン様式の追加、使い方ガイド整備を提案

質疑応答

- ・施設設備カテゴリの追加意図と今後のディメンション整理
 - 回答（趣旨）：行動の制約条件として重要なため残置。今後は 25 項目化と併せて 5 因子案で議論し名称は検討（GFSI との整合も視野）
- ・間接部門・経営層への適用と設問の作り分け
 - 共有：現状は製造現場向けを想定。間接部門での分かりにくさや回答偏りも認識
 - 方針：当面は現場向け中心。業務別・階層別の作り分けは今後の課題として検討
- ・「文化」と「風土」の用語使い分け
 - 共有：定義議論に時間を要し停滞しやすい
 - 提案：まず測定→結果から改善を進める運用を推奨
- ・普及・啓発の進め方と支援申し出
 - 無償の普及セミナー実施等の協力提案
 - 展示会・オンライン等での事例共有の場づくりを検討
 - 連携先案：経済産業局・地銀／信金、JFSM のプラットフォーム活用の可能性
- ・多文化現場での運用課題（デジタルチェックの形骸化）
 - 事例共有：臨時カメラ点検の実施記録と実態の乖離
 - 論点：理解浸透と記録の実証性確保、多言語対応の活用
 - 対応：クリティカル判断基準の明確化と多言語版ツールの活用
- ・取り組み事例のオープン共有
 - 提案：各社の具体的アクション・課題を公開共有
 - 反応：賛同多数。カゴメ等から外部講演・見学会等の実績共有の申し出
 - 目的：FCP 参加拡大と関心喚起につなげる
- ・運用プロトコル整備
 - 提案：監査シート同様に前中後の運用手順（プロトコル）整備を要望
 - 方針：第二期で検討チームを設置し、使い方ガイドと併せて整備
 - 目的：PDCA に接続できる実運用の標準化
- ・ツールの技術修正・多言語反映・JFS-M 連携
 - 共有：現行 Excel に技術的不具合あり。修正と多言語（7 言語）反映を早期実施予定
 - 連携：JFSM サーベイ基盤の活用等、プラットフォーム化を検討（費用面は課題）
 - ベンチマーク：参加企業間の比較可能性について今後検討

以上